

会 議 議 事 録

				記録者	生活環境課	主幹	加藤
供覧	部長	次長	課長	課長補佐	主査・係長	グループ員	
件名	令和8年度第 1 回龍ヶ崎市環境審議会						
日時	令和8年8月4日（火） 午後2時から午後4時まで						
場所	龍ヶ崎市役所5階全員協議会室						
出席者	【委 員】松本宏会長・尾内隆之副会長・佐藤昌一委員・披田信一郎委員・荒井久仁夫委員・安井城幸委員・津田尚彦委員・村田敦子委員・多田梓委員・樽井謙尚委員 【事務局】橘原都市整備部長・廣田次長 生活環境課：石井課長・猪瀬課長補佐・大野主幹・記録者						
傍聴人	無し						
内 容	1 開 会 2 会長あいさつ 3 議 事 龍ヶ崎市第 3 次環境基本計画の策定について 4 閉 会						
＜ 開 会 ＞							
事務局(猪瀬)	令和 8 年度第 1 回龍ヶ崎市環境審議会の開会を伝えた。						
松本会長	【挨拶】						
事務局(猪瀬)	委員の異動として、中山武委員（八原小学校校長）が新任となったが、本日は欠席と報告した。 今年度の事務局の職員を紹介した。 龍ヶ崎市環境審議会条例第 4 条第 2 項の規定に基づき、議事進行を松本会長に委ねた。						
松本会長	委員 15 名中 10 名の出席により、会議が成立していることを報告した。 会議録は発言者名を記載して作成・公開することを説明し、会議録署名人に佐藤委員及び安井委員を指名した。						
事務局(猪瀬)	現行計画が今年度で最終年度となるため、今年度末までに第 3 次環境基本計画を策定することを説明した。 市長から環境審議会会長への諮問書を読み上げた。						
会長	「諮問第 1 号 龍ヶ崎市第 3 次環境基本計画の策定について」、事務局より説明を求めた。						
事務局(大野)	資料に基づき、第 1 章から第 3 章までの素案を説明した。						
会長	事前質問があれば事務局からその内容と回答について説明するよう求めた。						
事務局(大野)	事前質問とその回答を説明した。						

会長	事務局説明及び事前質問への回答について意見を求めた。(委員からの発言はなかった。) 素案の構成について、第1章は計画の基本的事項、前計画の取組・達成度・課題、第2章は将来の環境像と方針、第3章は重点分野ごとの目標・施策・指標を示すものと確認した。 素案作成に当たり、審議会前に庁内や関係団体から意見を聴取した経緯について説明を求めた。
事務局(大野)	素案作成に当たり、庁内各課から、特に「現状と課題」に関する意見を収集したほか、市民環境会議からも市民の視点による意見を聴取したと説明した。
会長	第1章のうち、「計画の基本的事項」及び「龍ヶ崎市の概要」について意見を求めた。
披田委員	アンケート結果の抜粋は、審議前に内容を確認できるよう事前配布してほしかったと指摘した。 第1章1「施策の背景と基本的な考え方」の作成に当たっては、環境基本条例を踏まえ、本市における環境の捉え方を改めて確認すべきと指摘した。 あわせて、今後10年間を見据え、社会環境の変化を踏まえた計画とする必要があると意見を述べた。 緑のまちづくりプラン(緑の基本計画)を、環境基本計画と連携する計画として位置付けるべきではないかと質問した。田園環境、住宅地の緑、水辺及び水田景観などを含め、緑環境を本市の重要な環境要素として捉える必要があると述べた。
事務局(大野)	緑のまちづくりプランの重要性を認識していると説明した。公園は自然環境又は生活環境に関わるものとして位置付けを整理し、緑のまちづくりプランについても重要な計画として整理を検討すると回答した。
披田委員	緑の基本計画は公園に限らず、田園環境、街路樹及び住宅地の緑なども対象としていと補足した。緑環境を本市の環境における大きな柱として、他の計画と相互に関連付けて捉えるよう要望した。 自然環境分野の対象範囲が、生物生息環境、重要な野生動植物種及び生物多様性に偏っているように見えると指摘した。 農的環境、里山、水田景観及び身近な自然植生なども含めて表現できないかと質問した。
会長	農的環境、里山、湖沼及び景観なども自然環境の対象範囲に位置付ける必要があるのではないかと述べ、事務局の見解を求めた。
事務局(大野)	自然環境分野は幅広いが、素案では生物に焦点を当てた狭い表現となっているため、記載を見直す方向で検討すると回答した。
会長	自然景観は文化環境分野にも関係するため、分野間の整理が必要であると確認した。
事務局(大野)	文化環境分野との関係も含めて整理すると回答した。
披田委員	産業別就業者数のグラフについて、細かく読みにくいことに加え、環境基本計画との関係が分かりにくいと指摘した。第2次計画における掲載の有無と位置付けについて質問した。
事務局(大野)	第2次計画では資料編の参考データとして掲載していたが、第3次計画案では市の社会条件を示す資料として第1章に移したと説明した。

披田委員	産業別就業者数や生産額を本文に掲載しても、環境上の課題や施策との関係を読み取りにくいと指摘し、本文に掲載する意義について説明を求めた。
事務局(大野)	地球環境分野の CO2 排出量に関する指標と関連付け、市内産業の構成を示すことを想定して掲載したと説明した。一方で、現状では CO2 排出量との関係が分かりにくい面があると認めた。
披田委員	市内の産業、運輸及び市民生活に伴う排出実態が十分に把握されていない中で、産業別就業者数のみから環境上の課題を読み取ることは難しいと指摘した。本市の産業構造と環境との関係を踏まえ、データの扱いを検討すべきと意見を述べた。
会長	化学関連産業の就業者が多いなどの特徴は文章で示す余地があるが、詳細なグラフは資料編への掲載を含めて検討するよう求めた。
事務局(猪瀬)	計画との関連性が高いデータは本文に掲載し、関連性が低いデータは資料編に掲載するなど、構成を検討すると回答した。
会長	前計画の達成状況について、指標の達成状況及び評価に関する意見を求めた。
披田委員	歩きたばこ・ポイ捨て等防止サポーター登録人数について、平成 27 年度の数値を基準値とする経緯及び比較の妥当性を確認したいと質問した。あわせて、保全活動団体数、パンフレット等の作成数、山林面積などは、10 年後の施策評価に適した指標か検討が必要であると指摘した。
会長	前計画で設定した指標をすべて掲載する必要があるか検討し、計画との関係が深い指標を選定する方法も考えられると述べた。
事務局(大野)	歩きたばこ・ポイ捨て等防止サポーター登録人数は、第 2 次計画の改定時に追加された指標であると説明した。各指標が何を示すのかを検証し、第 3 次計画への反映に当たって見直しを進めると回答した。
披田委員	サポーター制度の開始時期と、平成 27 年度の 409 人を基準値とした経緯を確認した。
事務局(大野)	サポーター制度は平成 24 年 4 月に開始され、平成 27 年度までの登録者数 409 人を基準値としていると回答した。
会長	計画との関連性が高く、評価に必要な指標を選定して掲載する方法を検討するよう求めた。 第 1 章 5「環境の現状と課題」について意見を求めた。
荒井委員	ごみ処理の広域化及び処理施設の集約化について、7 市町村で協議が進められていることを踏まえ、計画に関連する記述や指標を位置付けてはどうかと提案した。あわせて、広域化に係るごみ量等のデータを資料編に掲載してはどうかと意見を述べた。
廣田次長	ごみ処理の広域化は、7 市町村で枠組みが決定された段階であり、施設の場所や具体的な内容は今後協議する事項であると説明した。現時点で具体的な指標やデータを示すことは難しいが、広域化・施設集約化を検討する旨の記載や参考資料への掲載について検討すると回答した。
佐藤委員	リチウムイオン電池及び石油ストーブ等から生じる廃油の処理について、現状又は課題として位置付ける必要があるのではないかと意見を述べた。環境基本計画又はごみ処理基本計画のいずれで扱うかも含め、課題として捉えるよう要望した。

披田委員	プラスチック資源循環について、サーマルリサイクルだけでなく、プラスチック自体の再資源化を進める方向性を計画に記載する必要があると指摘した。マイクロプラスチック、農業用塩ビ及び人工芝なども含め、プラスチックの使用抑制を課題として位置付ける必要があると意見を述べた。
会長	第2章は第2次計画を基本的に継承する案であり、温暖化対策実行計画との整合により一部変更となる可能性があることを説明し、意見を求めた。
披田委員	第2次計画からの変更が、「脱炭素」から「カーボンニュートラル」への表現変更にとどまっていると指摘した。目標の文言を改めて検討するとともに、第3章の具体的な施策と一体的に示す構成も検討してはどうかと意見を述べた。
会長	第3章について意見を求めた。あわせて、牛久沼の水質改善は流入河川の上流域が市外にあるなど複雑な課題であるため、市として実施可能な対策や計画に反映できる内容について意見を求めた。
尾内委員	全ての目標に表示しているSDGsアイコンについて、2030年以降の扱いを踏まえ、中間見直し時に見直す考えがあるか質問した。 自然環境分野について、対象範囲、目標及び指標の整合性が不十分であると指摘した。谷津、農地、林地、河川及び水路などを含む自然環境を基礎として、対象範囲と指標を整理すべきと意見を述べた。あわせて、年ごとの変動が大きい体験参加者数や団体数などの指標については、見直しを検討すべきと指摘した。
事務局(大野)	意見を参考に、今後の計画策定を進めると回答した。
披田委員	牛久沼の水質について、昭和50年代からの長期的な改善傾向を示すだけでは、状況を楽観視させるおそれがあると指摘した。市が対応できる範囲を踏まえ、水質に係る現状の記載や指標を再整理すべきと意見を述べた。 農地・林地の保全について、今後どのような施策を進めるのかを具体的に示し、審議会でも議論できるようにしてほしいと要望した。あわせて、計画策定の各段階で何を検討するのか分かるよう、今後のスケジュールを示してほしいと要望した。
会長	最後に本日の素案全体について、気づいた点等の意見を求めた。
披田委員	気候変動への適応について、単なる現状把握にとどまらず、農業における品種対応や生活環境への影響など、今後10年間を見据えた具体的な対応を計画に示す必要があると指摘した。
会長	気候変動への適応は、対象や方策をどこまで位置付けるか難しい課題であるが、指摘を踏まえて検討する必要があると述べた。 次回は、本日の意見を踏まえた第1章から第3章の修正案に加え、第1章の未作成部分、第4章及び第5章を含む事務局案を提示し、審議することとした。
事務局(大野)	9月下旬に第2回審議会を開催し、本日の意見を反映した内容及び第4章の地球温暖化対策実行計画を提示する予定と説明した。可能であれば10月にも審議会を開催し、11月から12月頃にパブリックコメントを実施する予定とした。パブリックコメント後は年明けに2回程度の審議会を開催し、今回を含め全5回程度で計画の完成を目指すとした。
会長	環境白書についても検討を進める必要があると述べた。計画については、市民が読みやすい本編と詳細データを示す資料編に分ける構成を検討するよう求めた。
事務局(猪瀬)	本日の意見を素案に反映し、未提示部分とあわせて次回審議会で示すことを説明した。会議録は委員確認後、佐藤委員及び安井委員の署名を受けることを案内し、閉会した。

	令和 8 年 8 月 4 日に行われた会議の内容については、上記のとおり相違ありません。
--	---

令和 8 年 10 月 2 日

会議録署名人_____

会議録署名人_____